

船井情報科学振興財団

第 2 回報告書

杉山 優衣

Oregon Health and Science University, Neuroscience Graduate Program

2024 月 12 月

8 月にポートランドに来て、早くも 4 ヶ月が過ぎようとしています。慣れない環境でバタバタと始まった新生活でしたが、環境にもすっかり慣れ、ここまでとても楽しく充実した日々を過ごせています。

授業

OHSU のカリキュラムは少し特徴的で、年内はラボローテーションが一切なく、コースワークに専念する期間となっています。夏学期（8,9 月）は準備期間のようなもので、神経科学の授業ではなくサイエンスにおける一般的なスキルを習得することを目的とした授業が中心でした。

プレゼンテーションの授業では、スライド作成や発表の構成に関する基本知識やコツを学びつつ、毎回 1~3 分のフラッシュプレゼンが課されました。前日にテーマが発表されて 1 枚のスライドを準備して発表することもあれば、発表直前にランダムなテーマが与えられ、その場で考えた意見を 3 分間で発表することもありました。その場で即座に意見をまとめるのは難しく感じましたが、良いトレーニングになりました。アメリカらしい点として、真面目に答えるだけでなく、ジョークを交えて聴衆を惹きつける発表が求められました。これまで正直あまり意識してこなかったのが難しく感じました。最終週には、過去の研究内容について 20 分の発表+10 分の質疑応答を行い、フィードバックをいただきました。

論文執筆に関する授業では、前半に構成の作り方などについてレクチャーを受けた後、TAを含む小グループに分かれて、各グループに与えられた課題論文の分析を行いました。論文の構成が適切か、説明や用語が十分にわかりやすいか、Figureの構成や配置は適切か、といった点について様々な観点から議論を行い、最後に全体でグループごとの評価を発表する形式でした。小グループでは積極的な発言が求められ、さらに論文は先に読んでおくのではなく、その場で読みながら議論するので、常に重要な観点を意識しながら論文を読む練習になりました。

研究計画書の書き方に関する授業では、実際に応募可能な奨学金の要項に合わせて、研究計画書やPersonal Statementを作成し、クラスメートやTAからのフィードバックを受けながら仕上げました。その他にも、キャリア形成や大学院生としてのメンタリテイに関して議論する授業などがありました。全体的に、もともと少人数(10人)のプログラムなのですが、さらに小グループに分かれて議論やフィードバックを行う機会が多く、日本の大学にはない双方向性の高い授業スタイルだと感じました。英語での専門性の高い議論についていくのは大変なこともありましたが、今後役立つ内容を密度高く学ぶことができました。

10月から始まった秋学期では、いよいよ神経科学の授業がスタートしました。10月は電気生理学、11月は分子細胞学・発生生物学、12月はシステム神経科学のコースがあり、それぞれ主に2回のテストで評価されました。昨年まではコロナの影響でテストが持ち帰り形式だったようですが、今年は久しぶりに対面試験が行われました。時には他大学やNIHから講師がきてくださることもあり、分野の第一人者から直接学ぶことができるのはとても恵まれていると感じました。授業内容は非常に濃密で、録画配信を活用しながらしっかり復習を行うようにしていました。特に自分の研究分野ではないトピックについてはこれまで深く学ぶ機会がなかったため、コースワークを通じて神経科学全体に対する理解が深まり、視野が広がったと感じます。講演を聴く際にも、以前より内容が理解できている実感があり、とても嬉しかったです。

生活（学校生活・私生活その他）

授業以外では、神経科学プログラム内で週2回ランチセミナーがあるのが特徴的だと感じました。木曜日は他大学から招かれた講師、金曜日は内部の大学院生やポスドクによる研究プレゼンが行われます。毎週、他大学のPIによる発表を聴けるのはとても貴重な機会だと思います。1年生の間は、セミナー前に関連分野の論文を順番に発表し、議論するジャーナルクラブがあり、理解を深める助けになっています。発表後には、学生のみでゲストスピーカーとランチを取りながら、研究やキャリアについて話せる時間が用意されており、PIの選び方やキャリアパスについて有益なアドバイスをいただくことができます。え金曜日のセミナーは、ラボ配属前に各ラボの研究内容について知る良い機会にもなっています。

水曜日の夜には大学院生の相互学習のため、自習室が開放され、ディナーが提供されます。他プログラムの大学院生も集まるため、異なる分野の学生と交流できる場となっています。また、毎週金曜日の夕方には Neuroscience Happy Hours として、夏は屋外で、冬はラウンジスペースでビールやピザなどを楽しみます。ここには大学院生だけでなく、ポスドクやPIなど幅広い研究者が参加し、特に先輩と仲良くなるいい機会になっています。その後、皆で街へ出て2次会や3次会に行くこともよくあります。このように大学が様々な交流の場を積極的に提供していることがとても印象的でした。（実質、週4回は大学で食事を済ませられます笑）

授業が終わった後は、料理をしたり、ジムに行ったり、時間がある時にはテニスを楽しんでいます。大学のジムはとても大きく、設備が充実していて、レッスンも豊富に提供されているので、人生で初めてジムにはまり、日本にいた頃より健康的な生活を送れている気がします笑。アメリカの外出は高いので、普段は自炊が中心です。車で30分ほどの場所に大きな日本食スーパーがあるので、友達に車で連れて行ってもらい、一緒に食材を調達しています。納豆や豆腐、お菓子、調味料、さらには日本のコスメまで揃っているのもとても助かります。ただし、日本円換算で2~3倍の価格です。こちらは

とても親切な人が多く、飲みに行く時、誰かの家に集まる時、遠くのスーパーに行きたい時など同級生や先輩が車で送迎してくれるので、とても助かっています。

週末は友達と出かけたり、ホームパーティーを楽しんだりしています。ポートランド周辺にはハイキングスポットが豊富で、夏には滝や湖に行くなど、自然を満喫していました。冬は残念ながら雨季なので、友達の家でホームパーティーをすることが増えました。料理を持ち寄ってブランチパーティーをしたり、同級生と集まって映画鑑賞会&ディナーを楽しんだりしました。同級生の中に料理がとても上手な友達がいるので、時々振る舞ってくれる手料理が最高においしいです。Thanksgivingにはその友達がディナーパーティーを開いてくれ、とても楽しい時間を過ごしました。また、10月にはシカゴでの学会に参加し、12月にはシアトルへ友達に会いに行くなど、他の都市も満喫しました。同級生や先輩は皆とても優しく面白いので、充実した日々を送っています。

おわりに

2週間後にはテストがあり、それで秋学期が終了します。そして1月からはついにラボローテーションが始まります。興味のあるラボで研究が始まることにワクワクしています。これからも楽しみながら頑張りたいと思います。ポートランドはとても住みやすく魅力的な街なので、ぜひ遊びに来てください。いらっしゃった時にはぜひ連絡してください笑。



左：Multnomah Falls

右：Thanksgiving party



左：クリスマスマーケット
@シアトル

右：Tram(ロープウェイ)からの
ポートランドの夜景